

## 推拿(マッサージ) 研修

講師 袁志斌 (上海体育学院解剖学)

久保隆彦 (明治学院大学)

研修会初日に養生法の各部門(気功法,呼吸法,太極拳,推拿)の日本語による研修資料が配布された。さらに近藤洋子氏の日本に於ける健康づくりと病気治療,民族舞踊と野口整体の講演資料も配布された。事前の資料配布により予め内容を把握することができた。それにより研修当日は資料により質疑応答がなされ,スムーズに実技研修にはいることができた。因みに推拿の研修は五日目の午前に行われた。研修員の疲れも見え始める頃で,プログラムの編成のご苦労が伺えられる。講師は上海体育学院解剖学研究室助教授袁志斌先生をお迎えしておこなわれた。 謝辞



袁 志斌先生

推拿研修資料内容(主な点を記す)

### 1. 推拿療法の考え方

按摩推拿法は力学を利用することにより、針灸と薬物で治療できない持病を治すことができる。世界医学界で一つの治療法として確立されている。 以下省略

### 2. 按摩推拿の広範囲の応用

医療按摩、保健按摩、運動按摩、職業按摩、美容按摩、等々以下省略

### 3. 按摩推拿の手法原理と常用手法

気の循環手法、揉みほぐし手法、関節を動かす手法 等々以下省

研修推拿実技編

袁助教授専門の解剖学による医療按摩、

保健按摩の解説、頸椎、胸椎、腰椎の図解説明から始まり研修員の中からモデルを選び、それぞれの診断を実践した。私もモデルの一人であった。その時の体験を報告する。

1. 上半身裸 診察台の上うつ伏せになる。頸椎1~7を触診し、脚部の神経が鈍っているのではないかと診断を受ける。確かに私の右脚部は時々冷たく痺れる感覚があった。

2. 背中叩き 上海体育学院解剖学診察台の上でうつ伏せのまま胸椎~腰椎を3、4回強く叩かれ、痛いか痛くないかを問われた。振動はからだ全体に感じたがあまり痛みを感じなかった。痛くないと答えた。すると骨粗しょう症ではないかと言われたが、これには少し疑問を感じた。実は測定器による骨密度を量ったばかりで異常はなかった。

3. 立位の姿勢でへそ診断(総合的診断の一部として)

へその型は人によって異なる。へその型で五臓六腑の診断もできると言うことで、私の場合は胃、腸、肝臓が要注意とのことであった。実技の研修は全員が興味を持ち多くの質問が出た。限られた時間のため全部の質疑に答えを得られなかったことが残念である。

推拿治療体験

研修三日日夜、推拿治療体験を希望者全員が受ける機会があった体験してみる価値が有ると思い、90分間の治療を受けた。ここでの推拿は下半身(脚部、足裏)が中心で疲労回復推拿である。推拿師は全員が伝統推拿の講習を終了し合格した者ばかりである。私見であるが足裏推拿にも多種の技法手法があることに気付かされ、脚部、足裏のみでもこんなに疲労回復ができるものかと実感させられた。今後とも推拿の技法、手法を学び続けたいものである。